

## 発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名： 多機能型事業所

取り組み

生活介護事業①と生活介護事業②の架け橋になる

取り組み期間

7年11月～1月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	生活介護①を利用する重症心身障害者は、中途障害の利用者が活動する生活介護②の作業にも参加している。現在、作業に加わっている①の利用者は2名で、作業に参加していない他の利用者との関わりが少ないことから、長期目標に「生活介護①と生活介護②の架け橋になる」ことを、中期目標に「生活介護①の利用者がより作業を楽しめる。生活介護②の利用者が生活介護①の利用者に積極的に関わられるようになる」ことを、短期目標に「生活介護①の職員と利用者一人ひとりについて情報共有する。上記のエピソードを②の利用者に伝える（特に作業中に伝える）」ことを置き、取り組みを実践した。
「D」 計画の実践	具体的には生活介護②の利用者のリーダーが、サービス管理責任者や主任も参加する作業支援会議に出席して、取り組みの内容を全体に周知した。生活介護①の職員と連携し、①の利用者の好きなものや情報を聴き取る他、生活介護②の利用者には作業中のリーダーの動きを実際に見てもらい、理解してもらうようにした。リーダーの動きを見て、生活介護①の他の利用者にも積極的に関わられるようになることを目指した。
「C」 実践の評価	生活介護②の利用者が活動する CD や DVD の分別作業場面には、生活介護①の重症心身障害者4～5名が参加している。これまでは、作業に加わる2名の利用者にのみ着目して対応していたが、生活介護①の利用者全員に関わることができるよう、生活介護②の利用者に、リーダーの動きを見せることにした。その結果、これまで作業に参加していなかった生活介護①の利用者にも目が向くようになり、作業に参加できる生活介護①の利用者も増加した。
「A」 結果と 改定計画	生活介護①と生活介護②の利用者は、別のケアルームや作業ルームで活動している。取り組みを通して、①の利用者の理解が深まり、作業に参加できる①の利用者が増加している。作業内容は、CD や DVD を籠に入れる簡単なものだが、生活介護①の利用者にも、工賃を支給している。生活介護①の利用者と家族は、「生涯で初めて給料を貰った」ことにとっても感動しており、今後も生活介護①と生活介護②の架け橋になるよう、取り組みを進めていく予定である。

### ＜第三者評価コメント＞

取り組みは、生活介護事業②の利用者の思いから、利用者を中心にしてスタートしている。これまでの取り組みは、「全国職業リハビリテーション研究・実践発表会」で、利用者と職員が継続して発表している。今後の取り組みの成果に期待する。